

20 臨床実習時のインシデント・アクシデントに関する意識調査

天池千嘉子¹

明倫短期大学 歯科衛生士学科¹

keywords : インシデント, アクシデント, 医療安全対策, 臨床実習

はじめに

歯科医療現場において鋭利な器具や回転切削用具の使用や直接血液や唾液を介する処置が多く行われるなか、質の高い医療を提供し、患者の安全を確保するためにも、われわれ歯科衛生士も医療安全対策に積極的に取り組む必要がある。

歯科衛生士教育においては「歯科衛生学教育コア・カリキュラム」に医療安全教育に関して、学内教育と臨床実習において様々な取り組みの必要性が示されている。しかし学生は事故防止に対する自覚が低くインシデントを起こす可能性がある。そこで臨床実習中に発生したインシデント・アクシデントの実態の概要を把握することを目的に調査を行った。

対象および方法

対象は本研究に同意を得られた本学歯科衛生士学科3年生71名で平成27年10月～平成28年9月の臨床実習期間中のインシデント・アクシデントの発生内容、報告に関して無記名式質問紙調査で実施した。

なお、インシデントとは事故に至らない「ヒヤリ」としたり「ハット」した経験とし、アクシデントとは医療行為の中で発生するトラブルで、損害が既に発生しているものと定義した。

結果および考察

1. インシデントの経験について

臨床実習中にインシデントの経験がある者は59名(83%)で、ない者12名(17%)となった。インシデントの内容は歯科診療補助中に発生した「器具の落下」事例が19件と最も多く、「ライトへの衝突」16件、指示間違い15件となった。

2. アクシデントの経験について

臨床実習中にアクシデントの経験がある者は21名(30%)、ない者49名(69%)、無回答1名(1%)となった。アクシデントの内容は歯科診療補助時に発生した「器具の落下」が最も多く4件で、次に「ライトの衝突」、受付実習中の「保険証の渡し忘れ」が3件となった。歯科診療補助時にインシデント・アクシデントが多く発生したのは術者とのコミュニケーション不足や術者から評価されているという緊張感があったからと思われる。

3. インシデント・アクシデントの報告について

インシデント・アクシデント発生後、実習担当者への報告について「報告した」33名(58%)、「報告しなかった」が24名(42%)となった。実習先への報告書の提出については「提出した」が18名(43%)、「提出しなかった」が24名(57%)となった。また報告しなかった理由として「報告する義務がないとおもった」が10名、「行った行為がインシデント・アクシデントという自覚がなかった」が9名となり、インシデントをインシデントと認識しない事例やそれを認識しても報告しないなどの意見が目立った。これは実習先や実習担当者により認識の差があったからと考えられる。

まとめ

臨床実習中に83%の者がインシデントを、30%の者がアクシデントを経験していた。内容は歯科診療補助実習時に発生した事例が多く次いで受付・対応など接遇に係る事例だった。またインシデント・アクシデントを認識しない事例や報告がなされない事例がみられた。

今後、医療安全対策における情報共有と再発防止の重要性を強く認識させる必要がある。